

# 仙台の高校の部活動地域移行

宮城県仙台第三高等学校 20 班

私達は先行研究で高校の部活動が先生方の大きな負担となっていることや学校間で指導格差が生まれていること、各地域で部活動地域移行を行おうとする動きが活発化していることを知り部活動を頑張りたい人の環境を整えるとともに働き方改革の一環として社会に貢献できるのではないのかと感じ部活動地域移行案の作成した。結果として部活動地域移行案は作成したが実際に試すことが困難であったため細かな点を改善できていない可能性がある。

キーワード：指導格差、部活動地域移行、働き

## I. はじめに

現在公立高校の教員の業務負担が年々増加する中で部活動における負担が大きと答えた教師が多くいた。このような教員の業務負担を減らすため仙台市立の公立中学校で 2025 年度までに部活動地域移行する案が出ている。またこれを受けて各高校にアンケートを行った結果指導者の経験の有無によって部活動における成績に大きな差が生まれてしまっていた。また、公立中学校の地域移行では「地域運動部活動推奨事業」

として取り組みが始まっている。これらを受け仙台市の高校の部活動地域移行案を休日に限定し作成することにした。

## II 探求方法

私達は大阪成蹊大学へのインタビューを行った。大阪成蹊大学は、現在部活動地域移行実現のために滋賀県高島市での実証実験など様々な活動を先進的に行っている学校である。このインタビューでは部活動地域移行を実施する際のメリットやデメリット、その対処について話を伺った。また、参考文献をもとにして地域移行における問題点等に関する情報を集めた。

## III 探求内容

### i) 指導者について

基本として部活動の指導を希望する教員には今まで通り指導を行っていただく。その中で指導を行う教員には各種目において講義を受けていただき指導の質を外部に委託する学校と差を出ないようにする。希望する教員がいない場合は大学に要請を出す。また、特別な指導を望むときはインストラクターに委託する。これらの要請は行政からまとめて委託する。これらの報酬はそれぞれ時給大学生にをは 2500 円、イン

ストラクターに 5000 円。大学生には指導の前に講義を受けてもらい指導の質を向上させるとともに暴力等の問題を事前に抑制することを目的とする。

### ii) 場所の確保

今まで使っていた学校の校舎をそのまま使う、その地域にある施設を使う。

## IV 考察

これらの先行研究を受けてわたしとは今までの部活動に比べて金が多くかかり負担が大きくなることが問題点であると考え。調査の結果子供を持つ親のうち部活動に対してお金をかけるのは抵抗があると答えた人が大半だった。そのためこれらの意識の改善なしには部活動地域移行はなし得ないと考え。また、現在は時間の都合や様々の要因が子供の部活動に触れる機会も減少している。そのため私は部活動を力を入れて行いたいができない生徒が数多くいることや子供の部活動に取り組む姿勢を知ってもらう改善の一步につながると考える。